

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 えまあぶる		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和7年12月19日		～ 令和7年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入浴設備があり、利用児自身の清潔保持への意欲向上、また保護者からのさまざまなニーズ(身辺自立や清潔保持)に応えることができる。	送迎時や面談の際に細かくニーズを聞き取り、本人ニーズ、家族ニーズに合わせた支援を行っている。	保護者や利用児のニーズの把握を引き続き行いながら、より自立に向けたサポートを提供できるよう、取り組んでいく。
2	児童発達支援計画に沿って支援が出来ており、利用児の家庭状況や、ライフステージの変化に応じて、社会ルールの理解や識字能力を高めるなど、利用児一人ひとりに必要な支援をチームで共通理解を持ち、取り組むことができている。	本人の意思を尊重した関わりを基に、5領域の視点から多角的な支援を行っている。また、送迎時や定期的な面談を通じて、保護者との密な情報共有を心掛けている。	日々の様子をお伝えするだけでなく、ご家庭での困りごとやできたことなど共感しながら、丁寧に伺っていく。また、事業所での様子を保護者に共有し、利用児が安心して過ごせるようなサポートを心掛けていく。
3	言語聴覚士の専門資格を持つ職員や、教職員、保育士など支援経験豊富な職員が揃っている。	それぞれの強みを活かした取り組みや支援を行い、保護者に情報共有を行っている。	取り組んでいる内容を口頭だけでなく動画や写真に収め、ご家庭でも取り組んでいただけるよう支援内容を伝達していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	幼稚園や保育園との交流や、地域で他の子どもと活動する機会が少ない。	事業所と関係機関との連携は取れているが、イベントなど定期的な情報交換の場が持っていない。	オープンスクールや地域のイベントなどの情報を積極的に取り入れ、連携を取りながら地域との交流の機会を持てるよう検討していく。
2	家族支援プログラムや研修などの情報提供がない。	感染症対策の観点から、まずは日々の支援を安全に行うことを優先に行ってきた。また、事業所に通所していることを周囲に知られたくないという方のプライバシーを守るため、家族支援プログラムなどは控えていた。	保護者に事業所で取り組んでほしいイベントをお聞きし検討を行っていく。また、個人情報の保護を徹底したうえで、活動内容を適切に発信していく。
3	定期的に避難訓練を行っているが保護者への周知が行き届いていない。	訓練日に通所のなかった利用児や保護者へ、取り組み内容の共有が行えていない。	訓練日だけでなく、日ごろからマニュアルに則った避難経路や緊急時の対応などについて、周知していけるよう努めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援 えまあぶる

公表日 令和8年 2月 17日

利用児童数

34 回収数

34

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	34					引き続き、安全に活動できるよう配慮していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26			8		職員の配置数など、保護者へもわかりやすく伝え、周知していく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	1		1		発達や障害特性に応じて、より視覚的に分かりやすい環境を整えていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34					清掃・消毒を徹底し、快適に過ごせる環境づくりを継続していく。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30	3		1		研修を通じ、今後も職員の専門性を高め、質の高い支援を行っていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32			2		引き続き、支援プログラムに沿った適切な支援を提供していく。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	33	1				利用児や保護者のニーズや課題を把握し、成長段階に合わせた支援計画の作成を継続していく。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	2		1		ガイドラインに沿って、具体的に達成可能な目標設定を行っていく。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32			2		引き続き支援計画に基づいた支援を行い、保護者へも取り組み内容をわかりやすく伝えていく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33			1		利用児が楽しみながら参加できる活動プログラムの設定を、継続して行っていく。
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	18	2	4	10		外出活動や地域行事への参加を検討し、活動の幅を広げていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	34					引き続き契約時等に丁寧な説明を行っていく。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33			1		面談等を通じて説明し、支援方針について共通理解を深めていけるよう努めていく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	7	6	8		研修会や情報提供の機会を増やし、ご家庭への支援を強化していく。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	32	1		1		引き続き、利用時の様子等を詳しくお伝えし、密に連携を取っていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	6		2		引き続き、面談や送迎時などに保護者からの不安や悩みなどをお聞きし、助言や家族支援を行っていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	4		1		保護者や利用児の思いに寄り添い、安心感のある対応を心掛けていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	9	8	11		保護者からのニーズに応じ検討していく。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	6				迅速な対応を徹底し、信頼される体制づくりに取り組んでいく。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	30	3		1	ご家庭との連携を密にし、情報伝達に漏れがないよう配慮していく。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	6		3	いろいろな事情を考慮していただき臨機応変に対応していただき、とても助かっている。	活動の様子など、より積極的に保護者に伝えていけるよう努めていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31	2		1		個人情報の取り扱いについて、今後も徹底した情報管理に努めていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	2	1	8		各種マニュアルを再周知し、緊急時にも迅速に対応できるよう備えていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	2		10		訓練を定期的に行い、保護者へも周知徹底を行っていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	2		4		安全管理体制について、保護者へもわかりやすく伝えていけるよう努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	3		5		引き続き、迅速な報告と詳細な状況説明を行ない、再発防止策を共有していく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	32			2	色々な人と仲良くしていただき感謝です。	利用児が安心して過ごせるよう、引き続きサポートを行っていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28	2		4		引き続き、利用児が楽しめる活動プログラムや、コミュニケーションを取りながら、サポートを行っていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	2			・帰ってきてからおやつを欲しがるのでちょっと少ないのかなと思います。 ・いつもありがとうございます。 ・帰りの時間がもう少し遅ければありがたい。	ご家庭の状況に応じたニーズやご要望を検討し、満足度向上に努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 えまあぶる				公表日	令和8年 2月 17日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		適切な利用定員で支援を行っている。	引き続き、適切な状態を維持していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		適切な配置で支援を行っている。	引き続き、適切な人員配置のもと支援を行っていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		室内は段差がなくバリアフリー化されている。視覚掲示や環境設定を行い、過ごしやすい空間作りを行っている。	利用児の特性や成長に合わせ、より理解しやすい工夫や環境設定を行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日定期的な室内消毒や、清掃を行っている。	引き続き定期的な消毒や清掃を行い、感染症など、時期に応じた衛生管理を行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		体調不良時や、クールダウンスペースとして過ごせる場所を適宜設けている。	安全に過ごせるよう、引き続き現状の状態を維持していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		毎日振り返りの機会を設け、職員間で共有し業務改善に努めている。	支援向上に繋がるよう、振り返りや意見交換を行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		送迎時や連絡帳で保護者の意向等を聞き、業務改善に取り入れている。	改善した結果などを、保護者へも分かりやすくフィードバックする仕組みを整えていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日のミーティングで職員の意見を聞く機会を設け、業務改善に取り入れている。	ミーティングの場以外でも、活発な意見交換を行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		外部評価は行っていないが、定期的な研修などで業務改善に取り組みよう努めていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		定期的な研修を行っている。	継続的な研修参加を通じて、支援の質の向上を図っていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		毎月公表している。	公表しているプログラム内容が、より保護者に伝わりやすい内容になるよう、工夫していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		こどもの意思や保護者のニーズを把握し、作成を行っている。	アセスメントの結果を計画に反映し、利用者主体の支援計画の作成を行っていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		日々のミーティングや支援会議を通し、職員の共通理解のもとで計画書を作成している。	引き続き共通の認識を持って支援を検討し、職員間での支援方針の統一を行っていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	引き続き、職員全員の共通の認識のもと、支援を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		利用児の状況などを日々記録に残し、確認している。	フォーマルなアセスメントツールもより活用しながら、引き続き利用児の状況確認を行っていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		すべての項目を適切に設定し、具体的にイメージしやすい支援内容の作成を行っている。	保護者にも、より伝わりやすい支援内容の設定を行っていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		ミーティングで意見交換を行い、チームで活動プログラムの立案を行っている。	引き続きチームでのより良い活動の立案や計画を行っていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		活動内容に偏りがないうよう、工夫して行っている。	こどもの興味関心を広げる工夫をしながら、プログラムの立案を行っていく。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	保護者の意向や、こどもの意思を確認しながら計画書を作成し、日々の支援を行っている。	個別活動と集団活動を、こどもの特性や発達段階に応じてバランスよく取り入れていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	朝に必ずミーティングを設けており、その日の支援についての確認と共有をし、支援を行っている。	時間をしっかりと確保し、より支援の内容を深めていけるよう打合せを行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	支援終了後にミーティングを毎日行っており、振り返りや共有事項を確認している。	引き続き行っていく、より良い支援向上に努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	毎日必ず支援に関する記録を取り、改善に繋げている。	記録を基に、定期的に支援内容の検証や改善を行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	半年に一度モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	モニタリング結果を保護者にも分かりやすく説明し、アセスメントに基づいた計画書の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	こどもの状況を把握し、理解した職員が出席している。	引き続き会議を通して、こどもの状況把握に努めていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	訪問看護や、保育園、幼稚園などと連携し、支援を行っている。	さらに連携を深め、共通の認識を持って支援を行えるよう情報共有を密に行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	送迎時や電話で情報共有を行い、共通理解のもと支援を行っている。	引き続き連携を図り、より適切な支援を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	保護者からの相談やニーズに応じて、引継ぎ事項など情報共有を行っている。	就学後の支援を見据え、引き続き情報共有を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		連携を図っていけるよう努めていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		連携を図っていけるよう努めていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	送迎時に必ず支援内容等をお伝えし、保護者との共通理解を持てるよう、コミュニケーションを取り、信頼関係を築いている。	引き続き信頼関係を築き、日々の些細な変化も共有し、安心して相談や連携を図ることが出来るよう努めていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	ペアレントトレーニングなどは行っていない。	保護者のニーズに応じて、検討していく。また、研修や講習会の案内などの情報発信を行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	必ず行っている。	引き続き丁寧な説明を行っていく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	定期的な面談の機会を設けたり、送迎時に意向を確認したりしている。	保護者とのコミュニケーションを積極的に取り、より一層、家族の意向や利用児のニーズの把握に努めていく。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	必ず提示しながら説明を行い、保護者にも分かりやすくお伝えしたうえで同意をいただいている。	引き続き丁寧な説明を行っていく。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	ご家庭での相談など、職員間で検討したうえで、助言や支援を行っている。	引き続き家庭の価値観を理解したうえで、助言や支援を行えるよう、職員間で連携していく。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8	そのような機会は設けていない。	保護者からのニーズが増えれば検討したい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		迅速に対応し、相談記録としても残している。	引き続き迅速な対応を行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月活動内容のご案内を発行し、お渡ししている。また、個人情報に注意しながら、活動内容の様子を写真等でお伝えしている。	引き続き個人情報に十分注意しながら、子どもや保護者が安心して活動に参加、認知できるよう努めていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		留意している。	引き続き十分注意しながら、取り扱っていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		口頭だけではなく、文面等で分かりやすくお伝えするよう配慮している。	子どもや保護者の特性を理解した上で、さらに分かりやすくお伝え出来るよう努めていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8			今後検討していきたい。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		年間計画に沿って、マニュアルを基に訓練を行っている。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年間計画に沿って、マニュアルを基に訓練を行っている。	引き続き計画に基づく訓練の継続と、保護者への周知を行っていく。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		服薬状況や病歴などの聞き取りを必ず行い、随時状況確認と共有を行っている。	引き続き確認と共有を行い、認識に誤りがないように注意していく。
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーの有無の確認を必ず行い、クッキングやおやつ提供の際には、成分表などを確認したうえで提供している。	引き続き確認と共有を行い、認識に誤りがないように注意していく。
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		年間計画に沿った定期的な訓練の実施や、マニュアルを基に安全性を確認・確保した環境で支援を行っている。	引き続き計画に沿って訓練を行い、保護者にも取り組みを周知していく。
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画を策定し、契約時にも説明している。訓練内容などは保護者へも伝えているが、周知が一部に留まっている。	引き続き契約時に分かりやすい説明を行ない、訓練内容も保護者へ周知していけるよう努めていく。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		記録として残し、改善点を話し合い再発防止に向けて取り組んでいる。	引き続き記録を残し、再発防止に向け適宜振り返りと共有を行っていく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的な研修やミーティングの機会を設け、適切な対応を行っている。	引き続き研修やミーティングを行い、職員間での事例検討等も取り入れ、適切な支援ができるよう努めていく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		組織として身体拘束を行わない方針を取り、そのための研修や、より良い支援方法についての話し合いを定期的に行っている。	引き続き身体拘束は行わず、子どもや保護者が安全・安心に過ごせるよう配慮していく。	